

花壇や農地などが近くにあれば、なおよい

終末迄楽しく遊べる「たまり場」案

おにごっこ トランプ・カルタ

空き地や空き家を利用し「高齢者中心のたまり場」を全国の自治会ごとにつくりたいと考えています。
(自治体ではなく「自治会」です。すべての住民は、ポツンと一軒屋を含めどこかの自治会に所属する、自治会の再編成を伴うと考えています。)

近所の子供と高齢者が一緒に遊んで楽しむ

しりとり 折り紙 1/10
かくれんぼ
クイズ・勉強会

基本形は、ベッドが運べるような大型エレベーターを有し、木造2階建て、あるいは3階建てで、一階は多目的ホールで、大型TV2台、テーブル&椅子席30席x2等で……

午前中は、主に出前朝食&昼食や、お茶やコーヒーを持ち込み、複数のグループの茶飲み会のような感じでのたまり場ですが、昼は主に、二台の大型TVによるミニシアターとして、夕方からは、出前居酒屋のような感じで、毎日何らかのパーティが開催可能です。

二階は、麻雀卓3台 & カラオケの部屋が3室ほどで、アクリル板で防音し、外から見えるようにすることで、自分では麻雀ができないけど、あるいはカラオケが歌えないけど、各部屋の外側から、椅子に座って、その様子を見ることができます。

事故&故障前提の低速自動運転車社会

24時間スマートホンで呼び出しが可能な低速自動運転車(雪国仕様車は、雪かきを行いながらゆっくりと進む)を使うことで、雪国のポツンと一軒家でも、とても暮らしやすくなり、世界中から人が(主に高齢者が)住み着きます。



その昔、農作業等で子育てができない母親や家族に代わって、近所の子供達をまとめて面倒を見る老人達が居たものですが、**より安全で楽な形で再現する。**

この「高齢者中心のたまり場」は、単なる空き地や空き家の一軒を満たすだけではなく、終末迄の人生として(老人ホームではなく)近所に住みたいという高齢者が増加し、近所の飲食店やスーパー等が活性化し、多くの高齢者達に移り住み、複数の空き家が同時に解消する施策でもあります。

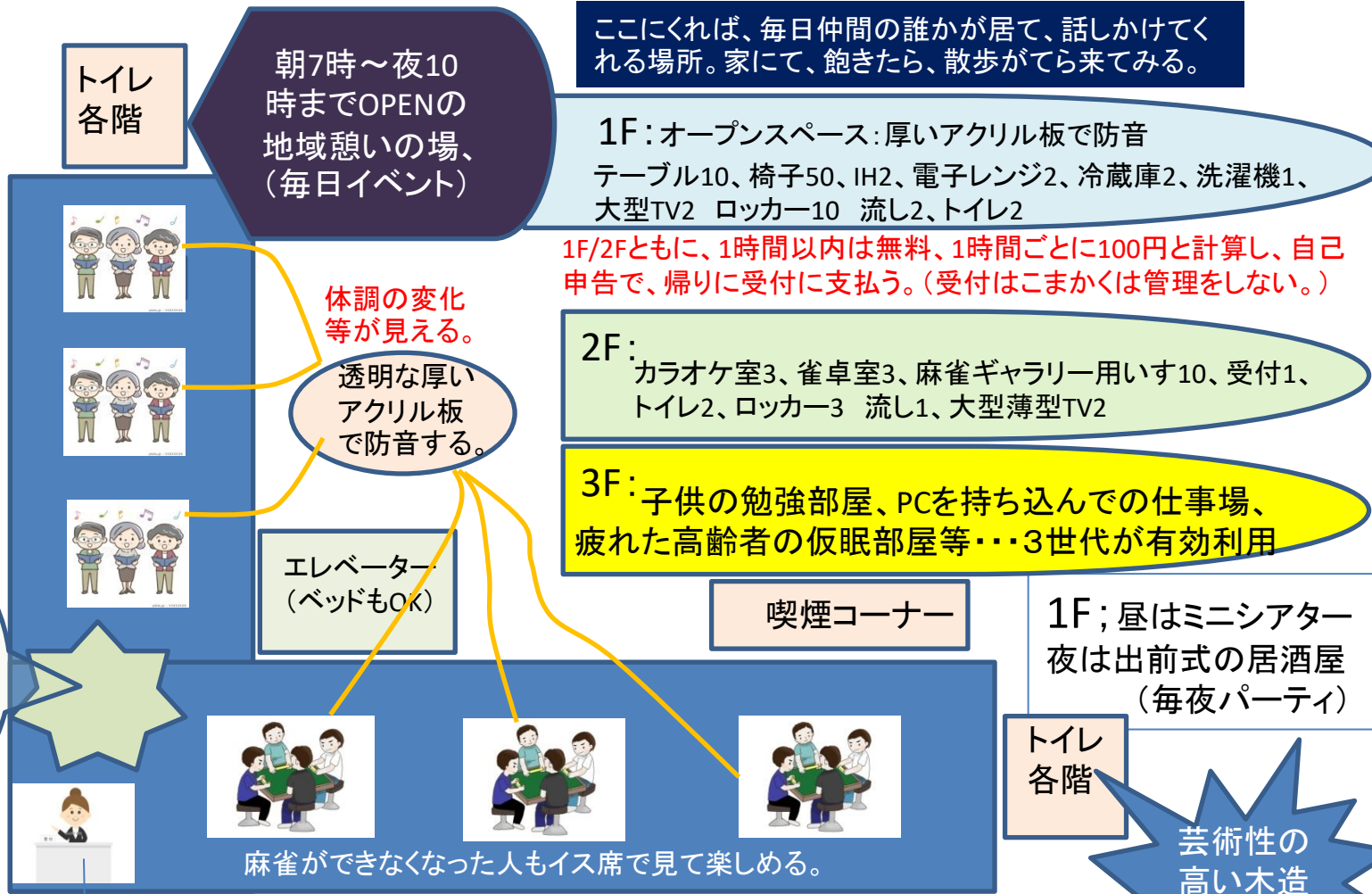
さらに、幸せそうな高齢者達をみた、若者たちの将来不安を払しょくし、勇気をもらい、恋愛結婚子育てをするようになります。

最大の子育て支援は高齢者と子供が幸せになること。

人生百歳時代に、終末ギリギリまで楽しく暮らすシステムを、日本全国各地の自治会から世界へ発進する。

リハビリ兼用螺旋階段：柔らかい部材で階段とガイドを部を構成し、転んでも怪我をしない。1FにSTARTボタン 3Fに到着ボタン設置し、競技会実施

高齢者が幸せに暮らすことが、若者にも勇気を与える。



トイレ各階

朝7時～夜10時までOPENの地域憩いの場、(毎日イベント)

ここにすれば、毎日仲間の誰かが居て、話しかけてくれる場所。家にて、飽きたら、散歩がてら来てみる。

1F: オープンスペース: 厚いアクリル板で防音
テーブル10、椅子50、IH2、電子レンジ2、冷蔵庫2、洗濯機1、大型TV2 ロッカー10 流し2、トイレ2

1F/2Fともに、1時間以内は無料、1時間ごとに100円と計算し、自己申告で、帰りに受付に支払う。(受付はこまかくは管理をしない。)

2F: カラオケ室3、雀卓室3、麻雀ギャラリー用いす10、受付1、トイレ2、ロッカー3 流し1、大型薄型TV2

3F: 子供の勉強部屋、PCを持ち込んでの仕事場、疲れた高齢者の仮眠部屋等・・・3世代が有効利用

体調の変化等が見える。

透明な厚いアクリル板で防音する。

エレベーター (ベッドもOK)

喫煙コーナー

1F; 昼はミニシアター 夜は出前式の居酒屋 (毎夜パーティ)

トイレ各階

芸術性の高い木造の建築



麻雀ができなくなった人もイス席で見て楽しめる。

全国の各地の自治会で、設置・管理・運営を行う。
市からの補助を引き出したうえで、長期ローンで返済(自治会費UPせず)

受付・☎予約・ネット予約・地域のHP入力担当兼掃除人 & 健康管理人(時給1500円:3交代)
カラオケ & 麻雀ともに、一人一時間100円とする。(出前OK)
(自治会員以外は200円とする。)

(大河の場合は大河に沿って構築する)

カーボンニュートラルにからめた、河川の総合開発の一環で、低速ボート&低速自動運転車で、愉しく移動が可能な「第二たまり場」を設置する。

夕暮れになって、親が居て帰宅できる子は帰宅し、そうでない子や介助が必要な車いすの高齢者は、出前夕食を世話好きのおばさんと一緒に食べるような感じがいいと思います。

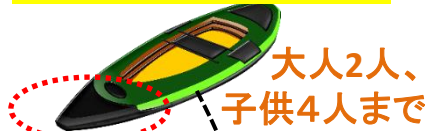
残業や飲み会で遅くなった親 (&介助者) は、第一たまり場に子供や被介助者を迎えに行けばよい。

「娘が通っていた学童は150人近くの児童が在籍する“すし詰め状態”の学童でした。おもちゃや本を持って行くと『私物が混ざると管理できない』と言われ、何をやるにも『禁止』とばかり言われていました。学童内でやれることといたら折り紙くらいで、それもまるで配給みたいに配られた枚数しか使えない。学年も違う子どもたちが一つの部屋に集められていますが、子どもの中にはやけに衝動的な子もいて、むかってくるような子もいます。でも子どもの数が多すぎて職員は手がまわらない。人数が多いせいか、いつも『みんなで遊ぶ』『みんなで黙っておやつを食べる』みたいな集団主義みたいなやり方なので、マイペースなうちの子は行きたがらなくなってしまいました。

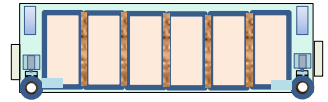
飛び乗り飛び降り可能な低速自動運転車

傘立て付き寝具装備可能なゴムボート

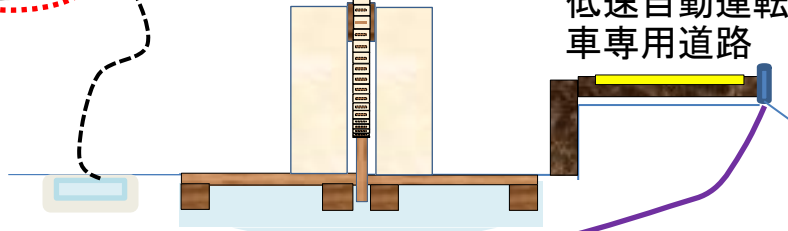
ペット同乗可



大人2人、子供4人まで



低速自動運転車専用道路



学童保育も労人ホームも制約が多くて自由に楽しく遊べない。⇒自治会の老若男女がより多く遊べるよう第二「たまり場」を河川の総合開発にからめて設定する。

子供や元気な高齢者は第二「たまり場」に移動する。
住居の近くの「第一たまり場」と「第二たまり場」とを定時シャトル便を設定。
(予約状況で台数&時間間隔を設定)
公園・畑・花壇・グランドエリア

- 2F: 多目的遊び場
- 1F: 多目的運動場

学童保育・老人ホーム⇒第二「たまり場」

- 1Fは多目的運動場: 自治会員主体の各種スポーツや伝統芸能などの練習が可能(自治会ごとで内容決定)
- 2Fグループ学習が可能な勉強部屋等、対話型アバター(チャットGPT)と、相方向でグループで勉強する。(図書館との違いは、楽しく騒がしくするのがモットー)

スマートホンアプリで24時間予約可能で、楽しみながら移動可能な二つの低速交通媒体を使用し、市内のどこにでも自由に行けるようにする。

遊びながら
楽しく暮らすシステム

スマートフォンからの予約状況から専門業者がゴムボートを移動配膳する。

河川の総合開発の一環で、スマートフォンで予約可能な、24時間運航のボートシステム&時速6kmの低速自動運転車システムを構築する。

チャットGPT技術で、人の状況やしぐさで、乗りたいかどうかを判断し、高齢者なら、停まって会話をする。ドアが開いているときは、安全に乗降できるよう、時速3km以下に減速するか、あるいは停止をする。

飛び乗り飛び降り可能な自動運転車

空いていれば、飛び乗ってもかまわないが予約が回らなくなったら降りなければならない。(予約者優先)

予約の場合はスマホアプリで課金予約なしの場合はワンコイン

低速なので、近場限定だが、低料金(運転手がない)

深夜は高速道路以外は走行が可能なので、都市間を寝台車として移動ができる。

2F: 多目的遊び場

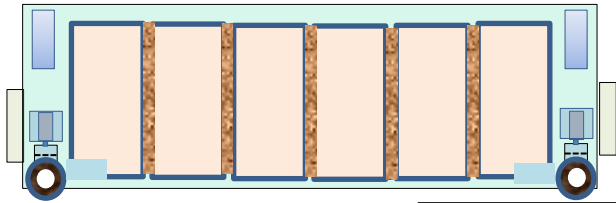
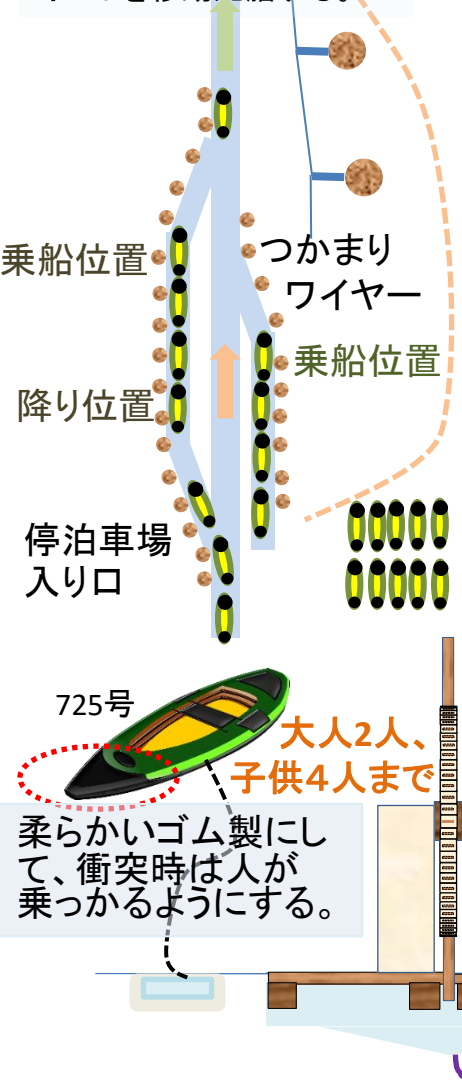
1F: 多目的運動場

公園・畑・花壇・グランドエリア

学童保育・老人ホーム ⇒ 第二「たまり場」

安全なシステムなので、アドベンチャー性はないが、24時間稼働なので、例、例えば、敷布団と掛布団代込み+雨降り対応覆いカバー付帯仕様で、3000円程度で、**ウォーターベッド**として新しい文化を醸成する。

各自治会の 第二「たまり場」を総合開発の河川の近くに設定するとして、各自治会ごとで、自治会地元の第一「たまり場」と河川近くの第二「たまり場」とを低速自動運転のシャトル便で結ぶことで、市内を網羅することができる。(チャットGPTのAI技術によって)前日までの、市内全体の総予約に基づいて、全体最適化の効率の良い走行計画がなされ、どの便でも空は存在する可能性が高く、予約なしでも、少し待てば市内のどこにでも行けます。



低速自動運転車の考え方

市場故障率0の自動運転車は存在せず、法定速度での事故では重篤な人身事故につながり、特に高速道路ではとても危険であり、レベル4以上の自動運転車は実用化されることはないと考えています。

事故や故障を前提とし、事故が発生しても全くけがをしない低速に限定した上で、指定された道路のみを走行することで、安全安心な乗り物となります。

低速自動運転車の課題

低速自動運転車は、ルート上のどこでも気軽に乗降できるメリットがあるが、数多くの方が、頻繁に乗降し、もともと低速な上に、その都度停止をしての乗降では、時間がかかり過ぎるという課題がある。

工夫1: 走行中に飛び乗れるようにする。

乗降口のドアの内側には、二個の取手と足置きが付帯しており、乗車時は、該低速自動運転車の速度より少し早く歩き、あるいは駆け足をして、該取手につかまり、足を該足置き部に乗せて乗車し、さらにつかまり棒につかまりながら歩き、安全な位置まで移動する。降車時は該取手につかまったまま、該足置き部に置いた足を、片足ずつ道路におろし、最初は該低速自動運転車の速度に合わせ歩き、次に該取手から手をはなすことで、降車できるようにする。

高齢者や障害者等あるいは目が見えない等で、該低速自動運転車が停車をしてから、乗降する場合には、上記ステップを踏まずに、つかまり棒につかまりながら乗降する。必要に応じて周囲の人は、アシストを行う。

工夫2: 360度全方向に移動可能

4個のタイヤの駆動モーターや、かじ取り用モーターは、互いに連動せずに、それぞれが独立して動作し、どれかが故障しても(駆動はしないが、フリーになっており)、低速自動運転車として機能をするようになっている。

該かじ取りモーターによって、各タイヤの向きは、±90度の範囲で方向が変わり、また該駆動モーターの正転及び逆転によって、結局360度の全方向へ進むことが可能である。(真横に動く縦列駐車が可能である。)

例えば、狭い道路幅で双方向走行が難しい場所での、すれ違いをする場合、進行方向と垂直に移動できるため、車の長さ分8mの縦スペースがあれば、そこに該車を入れてすれ違いが可能となる。

工夫3: バックアップ機能と二系統電源

バッテリーは2個あり、各バッテリーからの配線がそれぞれすべてのモーターとつながっており、片方のバッテリーが故障又は充電量が0になっても、低速自動運転車としての機能を維持するようになっている。

二つのバッテリーが同時に充電量0とならぬよう、片方の充電量が50%程度残っている状態で、片方が0になり、その状態で交換をすると効率が良いので、両バッテリーが均等に使われるように設定する。

工夫4: 現法定速度の車との共存

低速自動運転車専用道路と優先道路を設定する。現法定速度車は遠慮して走行(低速自動運転車の普及とともに、現行車は次第に減少していくと考えています。)

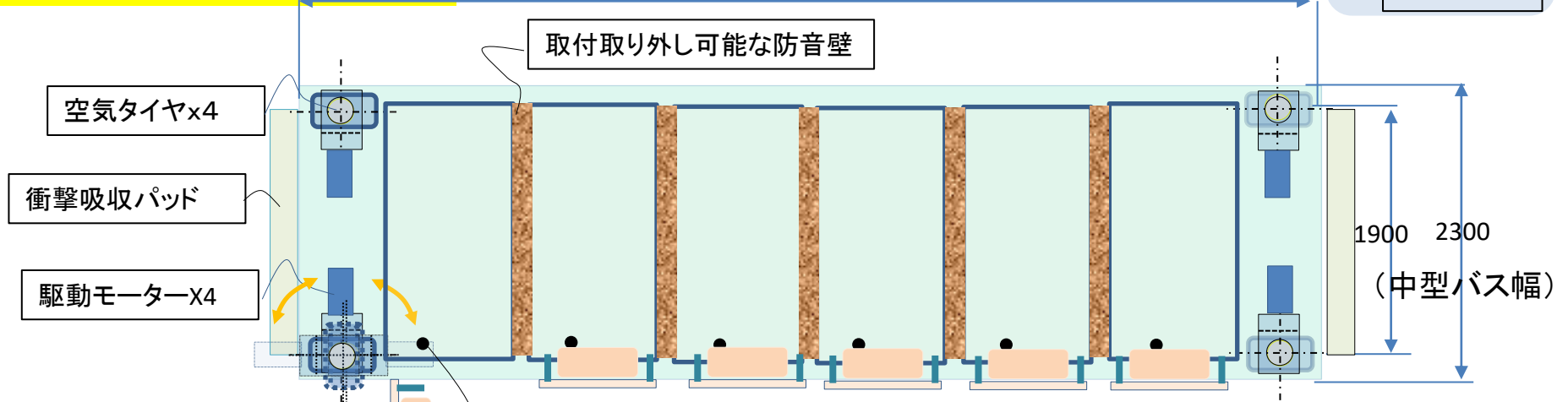
ルートは決まっているがどこでも乗車 & 下車が可能なので、その都度停車では時間がかかり、走行しながら乗降できるようにする。

事故・故障前提 & 指定ルート限定の6km走行の自動運転車

飛び乗り & 飛び降り可能な低速自動運転車

24時間スマートホンで予約可能

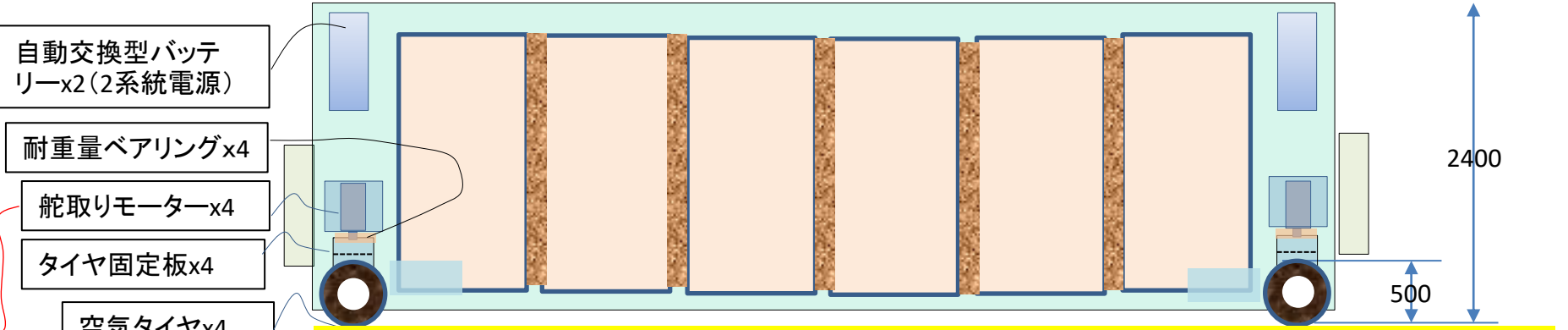
- N走行降車
- S走行降車
- 停止降車



- 足置き
- つかまり取手x2
- つかまり棒

人「4Km夫婦で乗りたいけど空きがある？」車「一つ空いています。」
 人「そこに二人で乗るよ」車「停まりますか？」人「そのままの速度でいいよ」車「4番目を開けますのでご注意ください。」

二人はかけより、取手につかまり、足置きに乗り、次につかまり棒につかまり、内部へ移動する。多くの監視カメラで見ており、安全確認後ドアが閉まる。



全方向移動可 (±90 & 正逆転)

1m x 2m x 2mは標準形で、リクライニング椅子、マッサージ椅子、ベッドや学習機を設定する。通勤通学の時間帯では6m x 2m x 2mのフリースペース(エレベーターの室内イメージ)とする。

河川の総合開発の一環で生じた低速自動運転車専用道路

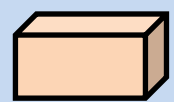
直角に動けるので片側を駐車保管施設とすることができる

麻雀卓が50卓あり
毎日大会が可能



たまり場:従来の自治会
会館等(可能な容積UP)

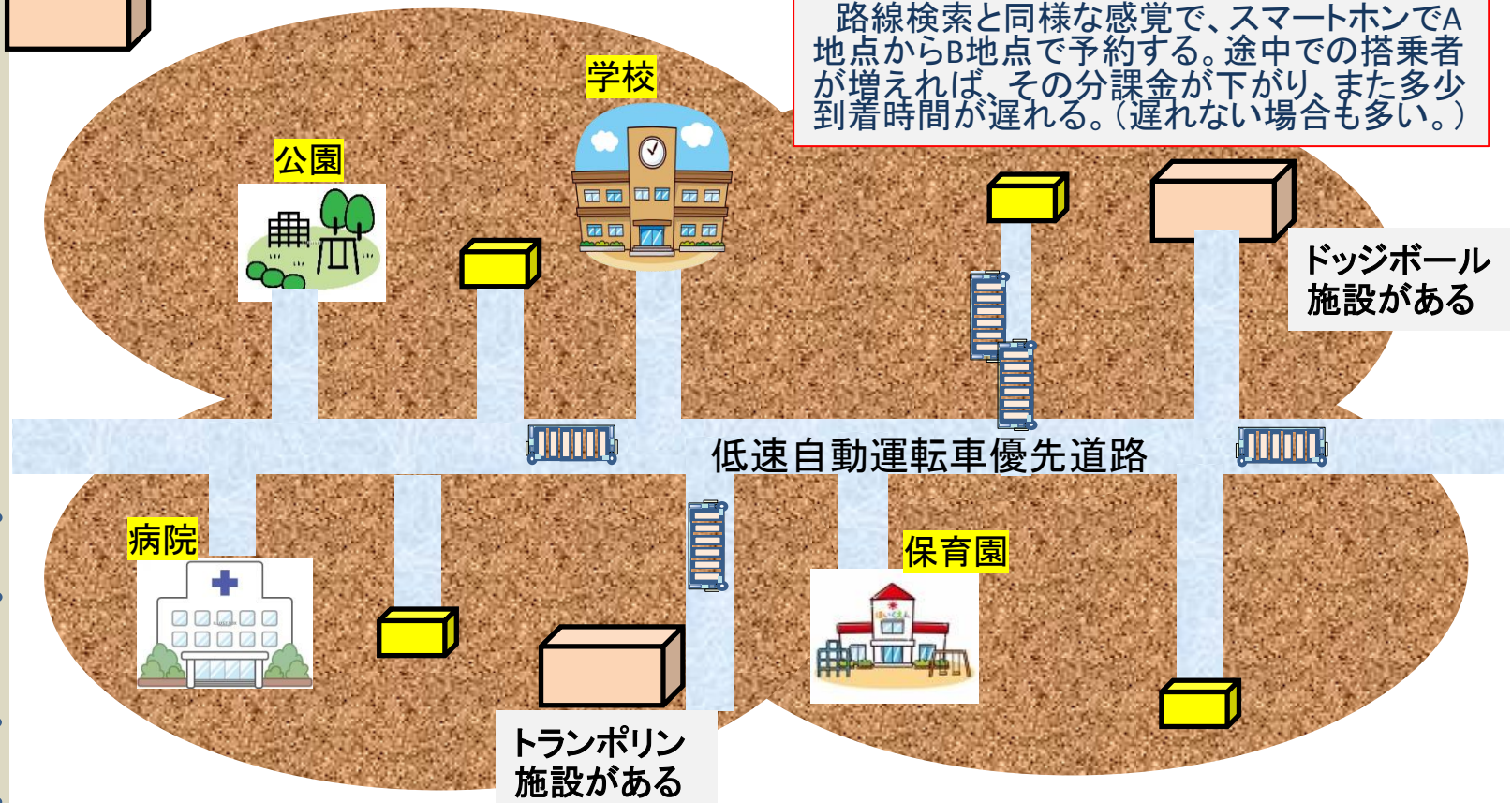
高齢者や子供達への軽いケア
をするシステムを用意する。



第二たまり場:河川の総合開
発又は大型空き家の改装等

市民と自治体とがよく話し
合い内容を決定する。

路線検索と同様な感覚で、スマートホンでA
地点からB地点で予約する。途中での搭乗者
が増えれば、その分課金が下がり、また多少
到着時間が遅れる。(遅れない場合も多い。)



ロッククライミング
施設がある

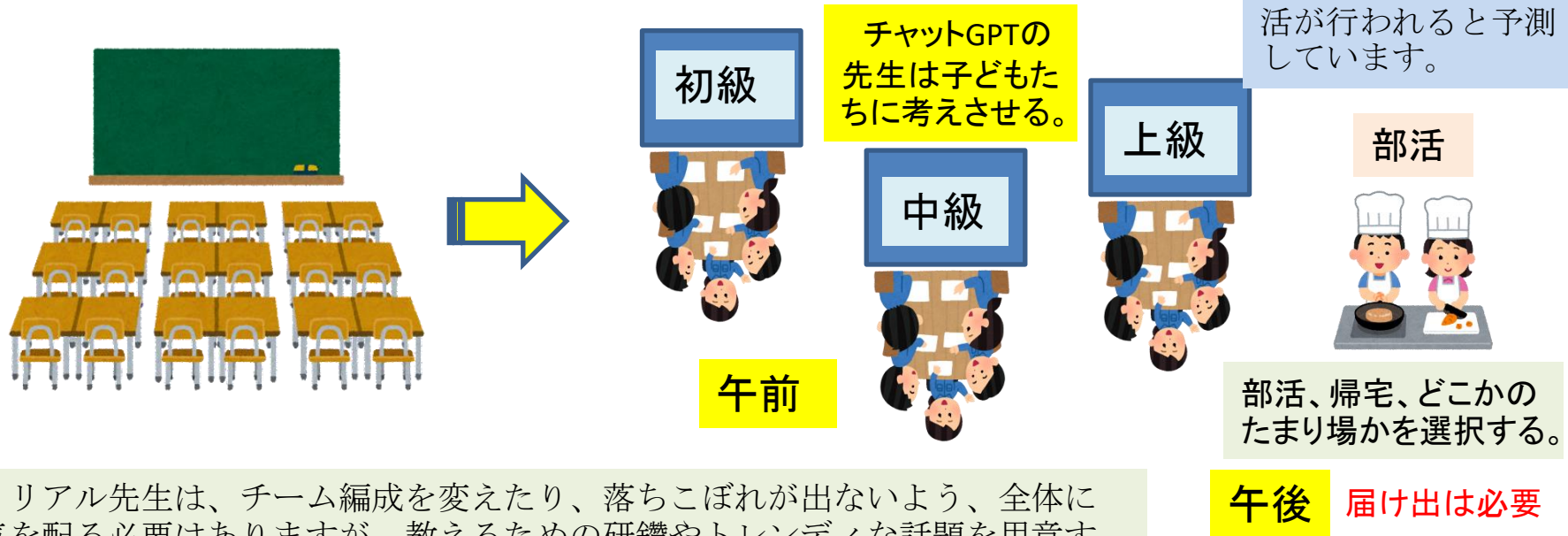
レイアウト変更可能な
かくれんぼ施設がある。

2m x 1m: 6室仕様車: リクライニング、マッサージ器、ベッド等
一乗車2000円を人数で割る

6.5m x 2mの1室仕様車: 子供の通学やたまり場等への移動用途

チャットGPTの母親アバターの「双方向」幼児英才教育システムにより、小学校に上がる時点で、大学教授並みの知識を持った子もいれば、先天的な理由で発達の遅れている子もいながらも従来の様な特殊学級は不要で、クラス内にて初級、中級、上級の様なグループを作り、また学習内容によってどんどんグループ編成を変えて、チャットGPT先生の、子供たちによく考えさせる授業展開が行えると考えてます。

今後の典型的な授業風景と同様な感じで、画面上のアバター先生と双方向での少人数でのグループ討議形式での、種々の部活が行われると予測しています。



リアル先生は、チーム編成を変えたり、落ちこぼれが出ないように、全体に気を配る必要はありますが、教えるための研鑽やトレンドイな話題を用意する必要はなくなり、代わりに、心のケアに関する知識や多様化する部活の専門知識を増やす等の努力が必要になります。

午前中に集中的に勉強（主に意見交換）するので、午後には帰宅を含めた多様な選択ができ、もっと知識を磨きたい人は、第二たまり場に設置したグループ討議：ワイワイとうるさく楽しく勉強する（講師はチャットGPT）ことが可能です。

例えば地域の歴史のグループ勉強（討議）をしたあとに、高齢者ボランティアの案内で、実際の史跡めぐりをするような感じで、楽しみながら知識を増やすことができます。

従来型：ブランド型の高校大学が激減し、専門学校的な要素が強くなると予測をしておおり、受験塾の多くは不要になり、資格試験や実力を磨くための塾が増加すると予測しています。

LSC車内自動保育システム

少子化対応は、お金だけの問題ではなく、安心安全な子育て及び英才教育をしながら、残業や出張もして、そして恋や趣味も楽しめる環境の構築にある。

LSC車内自動介護システム

現行の交通システムからいきなりチェンジは難しいので、導入は半自動で行う。

法定速度で運転も可能な低速自動運転車で、交通渋滞のない時間帯のみ自動運転で移動する。

母親(多忙でも愛情たっぷり)

通勤の行き帰りのLSCの車内の様子



リース型と賃貸し型がある。

LSCは一定時間ごとに、契約している授乳施設につれていき、その間、大画面TVには、AI=超天才お母さんアバターが登場し、一緒に遊んでくれる。



クラウドチャットGPT

双方向

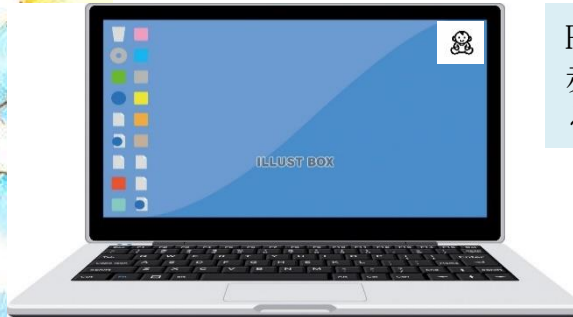
母親が仕事でのLSC車内の様子



介護施設&保育施設の大幅縮小

遅くまで残業をした後に、LSCでは運転するわけではないので、低速の分、ゆっくりとスキンシップを楽しむことができる。

PCやスマートフォンで、赤ちゃんをいつでも見ることができる。



愛情たっぷりの母親と超博識母親アバターによって育てられた子供は人の痛みのわかる天才に育つ

現状の課題：5月21日付け朝日新聞22面の記事：定年クライシス「居場所はどこに」から抜粋

誰も取り残さない社会

「昼ごはん作りたくない」滋賀県に住む70代の男性は、妻の言葉に驚いた。60歳で定年を迎え、雇用延長で66歳まで働き、退職してから間もない頃だった・・・専業主婦の妻は、自身の昼ごはんを前夜の残りものやパン等で済ましていた。

妻は続けて言った「週に3日は外に出ていて欲しい。」と・・・仕事も学校も行かなくなると、居場所がなくなる・・・

奥様と死別し、5年生の子供（B君）と80歳の母親（C子）と同居の、A氏50歳の生活を「低速自動運転車&たまり場」で、どんなイメージになるのかを紹介します。

<登場するシステム>

1. 第一たまり場（従来の自治会館、公民館等を顔認証システムで開放したもの）
2. 第二たまり場（河川の総合開発や空き地に新設&空き家を改築した遊び場）
3. 寝台仕様ゴムボートでの川下り（雨の日が特に人気）資料のP3 - P4ご参照。
4. 空中鉄道（夜間は人気なし、昼間、早朝や夕方が景観を楽しみ人気がある）

https://www.garden-field.com/files/ugd/954e39_6b17a727fba34c75bb2a2f1f34870604.pdf

5. 寝返り不要な極楽ベッドと匂いのしない水洗トイレ&ロボットウォシュレット
（カメラ付帯でAIの指示で汚物を完全除去）以下の資料のP2 - 4ご参照。

https://www.garden-field.com/files/ugd/954e39_dc44889bbbda4830b7022b5f41fe2251.pdf

6. ノーマル仕様（エレベーターのフロアのイメージ）の低速自動運転バス
7. 寝台仕様の低速自動運転バス（他に麻雀、カラオケ、ミニシアター仕様等）
（主に、夜間に河川の総合開発で生じた、自動運転専用道路を走行する。）

10年後、C子は主に、5. のプライベート仕様（一般車の大きさ）をリースで借りて、過ごすこととなりますが、（チャットGPTの母親アバター）AIが、楽しい会話をし、病院やディサービス、ケア付き美術館等、どこにでも（市内）連れて行ってくれるので、家族に一切負担はかからないと考えています。（お金がなくとも、終末まで、楽しく暮らせるとなったら、誰もが恋愛し、結婚し、子育てを楽しむと思います）

<日常生活の新しい形>

朝7時、第一たまり場にて、A氏B君C子の3人で出前朝食をとり、7時半にA氏は出勤、8時にB氏は登校、9時に第二たまり場（10時からの麻雀大会）へ移動ですが、それぞれがスマホで予約した6. に乗り込む。（C子は朝6時からウォーキングをしているので、基本的に食事は作らない）

B君の学校では、（チャットGPTの）AI先生の授業&グループ討議主体の授業は、午前中で終了し（給食後は自由行動：帰宅、部活、校内で雑談や遊び）、数学が得意なので、数学の研究（講師はAI）を一時間してから、第二たまり場で様々な遊びをして、夕方帰宅をする。（移動はすべて、6. で、自宅と第一たまり場間のみ徒歩）

C子は、麻雀大会を午後3時に終えて、途中で買い物をして、帰宅（移動は6.）

A氏は管理職で残業はつかないものの、自分の中で8時が定時と決めており、そのあとは、すぐに帰宅しないで、6. にて行きつけのお店で、食事とアルコールを少々、帰宅は、7. で寝ながら帰宅する（夜10時以降は自宅まで載せてくれる）パターン。

一部のお金に余裕のある家庭は高級車に乗り、塾や介護施設を使い、その他一般庶民は、誰もが、便利で自由に楽しい生活を送ることができるシステムです。